



都議会公明党: 新宿区西新宿 2-8-1 TEL: 5320-7250 / FAX: 5388-1787 <http://endomamoru.com> お気軽にご意見・ご要望をお寄せください。

「立正大学グループ」が事業予定者に

## 馬込車両工場跡地は「学校」に

東京都交通局の馬込車両工場跡地（大田区西馬込一丁目5番）開発の事業予定者が10月23日、「立正大学学園グループ」に決まりました。順調に行けば、平成24年春に中学・高校が開学する予定です。

応募者は全5者。このうち、同グループの提案は、100点満点中93.1点の高得点を獲得しました。

### ○施設を広く地域に開放○

開発コンセプトは、「環境と調和した魅力あるまちづくり」で、誘導目標は（1）環境の確保に配慮したまちづくり（2）多様な世代が集うコミュニティ豊かな拠点の形成（3）地域と調和した景観と防災機能の創出——の3つ。

具体的には、上記（1）については、校庭の芝生化や敷地外周を「森の回廊」として整備（2）については、グラウンド、体育館などの地域開放（3）については、災害時にグラウンド及び校舎を避難場所として開放——などの提案が学校側から示されました。

審査講評には、「「学校」という提案施設用途の特徴を十分に活かしつつ、「杜の学び舎」、「杜の回廊」等の「杜」をキーワードにしており、また、環境負荷の少ない「スーパーエコスクール」を目指す」と記されています。

しかし一方で、講評には、地域への学校施設の開放と、学校のセキュリティ（安全）の確保の両立をどう図るかなどの課題も指摘されています。

こうした諸課題については、遠藤守も、引き続き、議会等でフォローしていく考えです。

### ○遠藤質問の趣旨にそった方針○

なお同地の開発について遠藤守は、本年3月14日の都議会予算特別委員会で、下記の通り、地元との十分な調整の上、同地特有の環境・歴史・文化を踏まえて整備するよう提言していました。

#### 【質問要旨】

所有地は貴重な財産であり、有効に活用すべきことは当然。その上で周辺地域との調和も極めて重要である。その意味からも、地元のニーズを十分に把握し、活用の方向性を速やかに示すことが何よりも必要。（中略）馬込地区は、大正末期から昭和初期を中心に多くの作家や芸術家が住んでいたことから、いつごろからか、馬込文士村と呼ばれるようになった。いわば、文化学術の一大拠点であり、現在も多くの文学ファンが全国からこの地を訪れている。

また、同地域は、大田区内でも公園や畑、屋敷林など、比較的緑が多い地域、住宅街である。「（都重点事業の）先行まちづくりプロジェクト」の指定を含めて、ぜひ、こうした馬込地域が持つ歴史的、地域的な特性を踏まえた先導的な活用策を早急に提示すべきである。